

五島中型まき網地域プロジェクト(収益性回復型) もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【事業実施者: 奈留町漁業協同組合】

実証期間: 平成22年6月1日～平成24年5月31日

五島列島奈留地区の中型まき網漁業において、従前の1船団6、7隻体制から、漁場の共同探査と漁獲物の共同運搬を灯船2隻と運搬船1隻を共同で利用する1船団5隻体制に移行し、燃油消費量削減等生産コストの削減を図り、もって操業の効率化を主なねらいとする実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①燃油消費量の削減

②灯船による共同探査

③運搬船の共同利用

④漁獲物の鮮度管理

⑤安全運航

【流通・販売に関する事項】

①販路開拓

実証結果

【生産に関する事項】

①全船団(4船団)の年間燃油消費量は、初年度は出漁日数145日で1,676kl、第2年度は出漁日数149日で1,533klであった。従前の操業形態における年間燃油消費量が出漁日数180日で2,323klであったことから、実証操業の出漁日数を従前の180日と仮定して年間消費量を推定すると、初年度は2,081kl(従前の89%)、第2年度は1,852kl(従前の80%)となる。当該操業形態は、従前に比べて燃油消費量を10%以上削減できる可能性を示唆した。

②五島列島の東側と西側の海域に共同探査船1隻をそれぞれ配置し魚群探査を行い、魚群の分布、水温、潮流情報等を全船団に連絡し共有した。その情報をもとに直接操業に至った例は多くはなかったが、同情報により探査範囲の絞り込みが可能となり、船団運航の効率化、燃油消費量削減の一助となった。

③共同運搬船を、サバ、イワシ等が多獲される時期に漁獲状況に合わせた確に運航し、鮮度保持を含め効率的運航を図ることを目指したが、2年間ともサバ、イワシの漁況が悪く、企図した運航を行うには至らなかった。

④第2年度に全ての運搬船に記録式温度センサーを整備し、漁獲物鮮度保持のための魚艙の適正な温度管理を行った。また、魚艙内の漁獲物の体温測定を行った。

⑤全船に長崎県まき網漁船海難防止検討会による「安全運航マニュアル」に基づく安全運航チェックリスト日報を配布し、出港時に当該日報の記載による安全確認の励行を指導した。その結果、当該日報の記載と安全確認が習慣化し、乗組員の安全運航に対する意識が高まり、運航に係る事故は皆無だった。

【流通・販売に関する事項】

①五島地域で行われているマグロ養殖用餌料への供給を計画したが、サバ、イワシ漁が不漁であったため、企図したスケールで実施できなかった。このため、試験的に初年度では凍結製品を129トン、第2年度では144トン生産し、福江の養殖業者に供給した。当該餌料向け凍結製品の需要増加により新たな販路の確保に併せて地域外販売に使用する運搬船の運航回数の減少が図られれば運航経費の削減が図られる。

収支の状況について

主たるねらいの一つである生産コストの削減については、一定の成果を得た。実証期間中の荒天、異常気象により出漁日数が目標の80%であったこと及び秋口のサバ漁と春先のカタクチイワシ漁が不振であったことに起因し、水揚げ量と水揚げ金額は初年度2,383トン、485百万円、第2年度2,822トン、635百万円と、改革計画の目標値5,696トン、898百万円を大幅に下回った。